

## 募集

# さとぷろ。学校 受講生

森林に親しみ  
里山再生の輪を広げよう！

森林を共に楽しむ仲間をつくり、里山の現況への理解を深め、森林への知識・技術を身に付けます。ヒノキ人工林の間伐作業のほか、人の暮らしと共に成り立っていた里山の多様な自然環境とそこに生息してきた生物についても学習します。

### ●開講期間

4月26日～12月20日（全10回）

●対象 原則としてすべての講座に参加でき、終了後、市内で里山整備活動を希望する人

●受講料 5,000円

●定員 10人（先着順）

●申し込み 3月21日（火）から4月10日（月）までに電話またはファクスで申し込みください。（受付時間：午前9時～午後5時）ファクス用の申込用紙は、耕地林務課窓口（2階16番窓口）か市ホームページで入手できます。

### ●問い合わせ・申し込み

〒399-8281（住所記載不要）

耕地林務課林務担当

（TEL71・2432 FAX71・2507）

### 講座スケジュール（予定）

回	日付	内容（場所）
1	4月26日（水）	開校式・長峰山周辺の見学（明科・天平の森）
2	5月17日（水）	現地視察・荒山林業北山の森（大町市）
3	6月25日（日）	草原植生と生物・草地の草刈り（明科・天平の森）
4	7月26日（水）	現地視察（松本広域森林組合ほか）（市内）
5	8月30日（水）	山林の見学・森の健康診断（堀金・啼鳥山荘）
6	9月27日（水）	間伐について・ヒノキ林間伐実習（堀金・啼鳥山荘）
7	10月25日（水）	ヒノキ林間伐実習（堀金・啼鳥山荘）
8	11月22日（水）	ヒノキ林間伐実習（堀金・啼鳥山荘）
9	12月6日（水）	竹林整備と炭焼き・手道具の手入れ（明科・天平の森）
10	12月20日（水）	ふりかえり・閉校式（市役所）



## Interview

自然に触れ、気持ちよく過ごせる場所づくりの手伝いをしたい

プロジェクト参加者  
こいずみひろみ  
小泉洋美さん  
（穂高）

チェーンソーの使い方を学ぼうと思い、「さとぷろ。学校」に参加しました。年齢、職業などがさまざまな人と接し、話を聞くことができ楽しかったです。フィールドワークでは、森の動植物や木の名前を教えてもらいとても参考になりました。

県外で生活していた時は、自然に接することもなく、関心もありませんでした。安曇野に移り住み、木の家に住むようになったことで、季節を感じながら、体を動かす生活の良さに気づきました。自然にあるものを生かし、木が持つ温もりを感じる日用品や、薪ストーブなどがとても心地良いです。

今後は、「さとぷろ。」で学んだことを生かし、木育など、子どもたちが自然に触れ、気持ちよく過ごせる場所づくりの手伝いをしたいです。



1 内川さん（写真左側から1人目）から伐採方法や山の様子を聞くPJの皆さん 2 伐採予定のニセアカシア林 3 昭和35年頃の天田集落の風景（写真提供：内川利喜夫さん）

# 来年度に向けて さとぷろ。 活動スタート

「さとぷろ。」では来年度に向け準備を始めています。木質バイオマス利用促進PJでは、薪利用促進の取り組みに向け、2月2日に市内を現地視察しました。

### 薪の利用促進へ 市民自ら伐採した薪を使う

PJの皆さんが訪れたのは明科地域の潮沢区天田地区。この周辺で林業に携わる内川利喜夫さん（明科東川手）は60年間、大きな機械を使わず、小規模ながら、薪やシイタケの原木を安定して地域に出荷しています。内川さんは、小面積で区画を決め、15～20年周期で木々をすべて伐採することで、天然更新を促し、里山の維持に貢献して

きました。訪れた林は、昔は畑として使われていたニセアカシアの林で、15年前に内川さんが伐採した場所です。PJでは伐採方法などを学びながら、来年度、比較的作業しやすいこの場所で、市民自ら伐採し、薪として利用していくと計画しています。

### 里山の仕事の大切さや感謝の心を多くの市民へ

内川さんは、伐採後、発芽した木に「大きくなれよ」と話しかけ、成長する姿を感じて仕事をしているそうです。本年度、県の「ふるさとの森林づくり賞」でも表彰され「自然の中で自分ができることを続けてきたことを認めてもらった。若い人に自然豊かな山の仕事に関心を持ってもらえれば」と話します。また、春の山菜、収穫したシイタケ、山頂からの眺めなど里山の恵みや素晴らしさ語り、山の恵みをもたらす、山の神様に「ありがとう」と感謝します。里山再生計画推進協議会の委員も務める内川さんの話に、PJの皆さんは熱心に耳を傾け、メモを取っていました。

### 今の生活スタイルに合った 里山再生に取り組みます

かつて人里近くに広がる里山は、私たちが生活するために欠かせない自然環境でした。それは、毎日の燃料である薪の採取地として、コナラなどの若い枝葉を水田の肥料に、また農耕馬などの餌を採取する草地として、当時の生活のすべてが、里山から供給されていたからです。しかし、現在の里山は、私たちの生活スタイルの変化により、利用されることがほとんどなくなりました。

里山再生計画は、現在を生きる私たちが無理なく里山を利用し、今の生活スタイルにあった取り組みをすることで、里山の再生につなげていくものです。豊かな里山を引き継ぐには、多くの皆さんが里山に関わっていくことが大切です。「さとぷろ。」の取り組みに皆さんも参加してみませんか。

### 圃耕地林務課林務担当

（TEL71・2432 FAX71・2507）

## News

### 森林・林業の振興などに貢献

本年度の「県ふるさとの森林づくり賞」と「県林業関係ポスター等コンクール」の表彰式が1月17日、県庁講堂で行われました。市内関係分の受賞者は次の皆さんです。



表彰後の内川さん

#### 【県ふるさとの森林づくり賞】

森林づくり推進の部

県林業経営者協会会長賞 内川利喜夫（明科東川手）

#### 【県森林林業関係ポスター等コンクール】

国土緑化・育樹運動ポスターの部

県教育委員会賞 村上桜風（穂高東中）

県緑の基金理事長賞 大澤智大（豊科北中）

野鳥愛護ポスターの部

県緑の基金理事長賞 宇留賀乃杏（豊科高）